

育爺(いくじい)のつぶやき「お小遣いで買った釘^{くぎ}100本」

今年の1月、同居している当時小学2年生の孫が、校内マラソン大会が近づくものの、いくら頑張っても「3位にしかできない」と私に打ち明けました。私「3番とはすごい!」、孫「男の子は3人しかいないのでドゲ(ビリ)」だそうでした。孫「どうしたら1番になれるか」、私「一生懸命練習する以外にない」、孫「頑張ってみる」で、毎日育爺の私と練習した結果、随分速くなり、1番を狙うまでになりました。孫「おじいちゃん、1番になったら欲しいものがある」、私「何だ」、孫「NHKの『西郷どん』で見たツリーハウスが欲しい」一。内心、1番にはなれないだろうと思っていた私「よし、造ってやる」でした。

結果は、私のアドバイス「スタートダッシュ&心臓破りの最後の坂道頑張り作戦」のおかげで、本当に1番になりました。さあ、それからが大変です。「ツリーハウスはいつ造ってくれるの?」と、孫はまるでストーカーのように私に付きまとい、結局孫の描いた下手くそなツリーハウスの設計図を基に、わが家の庭の片隅にツリーハウスを建て始めました。

ほとんどの材料は廃材を使いましたが、孫は自分がためたお小遣いの中から母親と相談して1,000円出し、ツリーハウス造りに必要な大小の釘を、2人でホームセンターへ出掛け買ってきました。孫は慣れない手つきながらも、のこぎりで板を切ったり、金づちで板に釘を打ったり、真剣に取り組みました。

冬休みの終わりの日、ツリーハウスは寒かった戸外作業を経て見事に完成し、お菓子をまいて家族で完成を祝いました。以来、土日はもちろんのこと春休みや夏休みには、近所の子どもがたくさんツリーハウスに集まって、それはにぎやかな、ちょっとした集会所となっています。自宅の子ども部屋に巣ごもりしてゲームに講じることの多い子どもたちとは全く違った、生き生きとした姿についてうれしくなりました。

いろいろな遊びを教えながら関わっていますが、親の金銭教育も大事ながら、育爺の孫とのかかわりも大事だと思う今日この頃です。

愛媛県金融広報アドバイザー
若松進一